

禾生地区 其の一



禾生地区

神社名 生出神社

鎮座地

都留市四日市場一〇六六番地

祭 神

建御名方命

八坂刀売命

例 祭

九月一日例祭日

神事用具

神樂、神輿、屋

台だし、後幕等

保存されている

が、特に神楽保

存会が設立され、

神樂教室活動が

盛んに行なわれ

後継者の育成に

努めている。

由 緒

当社の起源は、

奈良時代大宝三癸卯年（七〇三年）のとき、生出山の頂きに、毎夜光りを放つものがあるので、その光をたずね調べたところ、その岩の表にも裏にも登龍の形があるので不思議に思い周囲を眺めていると、突然そこに異様な老人が現われて言うことに、「この岩を神宝として諏訪大神を奉斎すれば、必ずや里人は安泰に守護されん」と伝えるとともにその姿は消えてしまった。村人たちはそのお告げによって、山の頂の池のそばに社殿を造営して、その名を諏訪大明神とした。

それから約二〇〇年を経て、平安時代の初期延長七己丑年（九二九年）に現在地に遷宮し、山頂の社を奥宮とした。その後約五年して、応永二十三丙申年（一四一六年）に、武田信光公が駿河に出陣するとき、谷村の小山田邸に宿泊したが、このとき諏訪大神に参拝し、社領として四反二十八歩を寄進し武運長久を祈った。次いで後柏原天皇より御真筆を頂き、更に元和六年（一六一五年）領主土佐守成次公が社殿の造営を行ない、寛永元年（一六二四年）鳥居公より宝物の寄進があった。現在これらの宝物、御真筆は所蔵している。

明和五戌子年（一七六八年）七月本殿を再建。

後柏原天皇

春の夜は軒端の梅ともるゝ月の光もかほる心地こそすれ

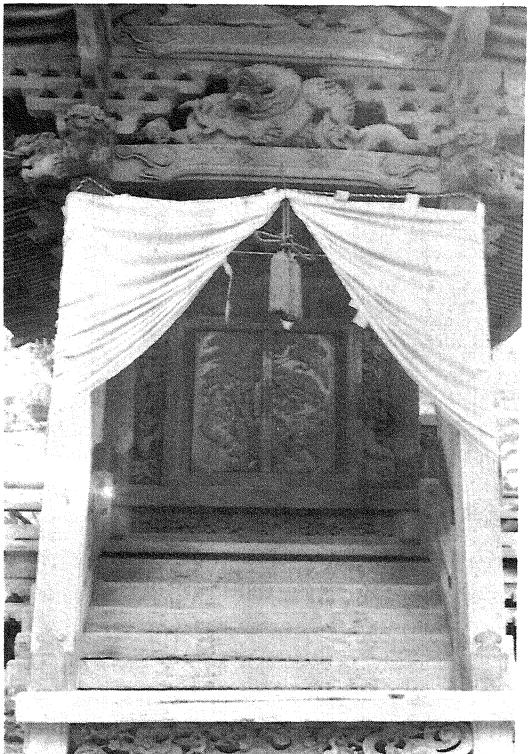
御陽成天皇

夏山に恋しき人や入りにけん声ふりたてゝなくほととぎす

明治四年七月四日郷社に列せらる。

明治四十二年二月十六日神饌幣帛料供進指定神社となる。

甲斐国志によると



生出神社の本殿



この神社の南方に生出山があり、その山頂に小さな湖がある。こんなこんと水をたたえて白蛇が棲み、時折平地に姿を現わし、そのため人々が恐れおののき、頂上に祠を建てて

神灯 二対安永七年と刻まれている。

鳥居 木造一基 生出大明神の額のある大きな鳥居である。

境 内

約十九アール。

境内社

末社五社

天神社（菅原道真公）

ほうそう神社（大己貴命）

蚕影神社（稚蚕靈命）

風神社（級長津彦命）

大室神社（伊邪那美尊）

秋元公二代富朝には世継の子がなかつたので、諏訪神社に祈願し

たところ世継が生まれた。このことから生まれ出する崇厳な神で

あるとして、領主の威光を以て社名を「生出神社」とした。

また社殿裏側にある彫刻は名工の作で、「獅子は子が三歳になる

と深い谷底へ突き落し、あとは自力で一人前になれ」との諭しが

刻まれてある。と伝承されている。

この社の祭典は旧暦八月一日で、八朔祭りといわれていたが、現在は九月一日である。

本殿の裏に標高七〇一米位のところに巖石毅然とした峯が聳えて

おり、これが生出山と称している。この山の寅卯の方九合目位

の所に、周囲一五〇米程の池があり、その池にちなんだ伝説がある。

生出神社は、御神体の石のこと、鳥居公の宝物のこと、後柏原天

皇の御真筆等歴史的な記録、伝承等豊富であるが、その歴史的事実を裏付けするような資料に乏しいことは残念である。

なお、昭和五十二年五月発掘されたいわゆる「生出山遺跡」は、

標高七〇一、四米位のところにあって、早期遺構発見例としては大変珍らしい山頂遺跡である。とされている。

生出神社

鎮座地 都留市井倉四五六番地

祭 神 八坂刀売命

例 祭 建御名方命

神社名 生出神社

神事用具 子供神輿。

由 緒

九月一日

いるが、これを生出山と称している。この山の寅卯の方九合目位の所に、周囲一五〇米程の池があり、その池にちなんだ伝説がある。

生出神社は、御神体の石のこと、鳥居公の宝物のこと、後柏原天

皇の御真筆等歴史的な記録、伝承等豊富であるが、その歴史的事

実を裏付けするような資料に乏しいことは残念である。

なお、昭和五十二年五月発掘されたいわゆる「生出山遺跡」は、

標高七〇一、四米位のところにあって、早期遺構発見例としては大変珍らしい山頂遺跡である。とされている。

諏訪明神を祀ったところが白蛇が現われなくなつたという。

延長七年（九二九年）七月、今の場所に社殿を造営し、生出大明神として奉遷したといわれている。

明治五年五月村社となる。

山梨県市郡村誌に

〔生出社〕 村社々地東西武拾四間南北拾四間五尺四寸面積三百五拾七坪本村東南井倉村ニアリ云々とある。

甲斐国志によると

一〔生出明神〕井倉村ニアリ 祭神建御名方命、除地四畝拾三歩、末ケ二十
祠、中略 例祭七月廿二日、井倉、与繩両村産神ナリ

神主柴村美濃古文書二通所藏

伊藏之鳥居建立ニ付而為御祝吉參十四被仰付候其首風可仕者也

未八月十九日 善五郎方へ略

秋元但馬守奉納太刀壹振長二尺五寸 太刀銘云甲州都留郡井倉郷生出山

大明神御劍元祿戌寅十二月吉日於武州秀辰作、函上云、甲州都留

郡井倉郷生出山大明神奉納御太刀一振從四位下行侍従但馬守藤原

朝臣秋元氏喬朝宝永己酉歳三月五日。と記されている。

社 殿

本殿 流造り採色トタン葺、方二間。

拝殿 切妻向拝造りトタン葺。

うち一対は元禄十七年（一七〇四年）、もう一対は安永六年（一七七七年）のものである。

廿三夜塔一基 天保五年（一八三四年）十二月。

鳥居 木造一基
神灯 二対

境内社

末社十祠といわれているが、現在は天神社一社のみである。

ちなみに末社十祠は、天神、地祇、八幡、庖瘡神、風神、天照大

神、飯縄、山神、稻荷、金比羅、である。

都留市内に生出神社が四日市場、法能、井倉の三地区で三社ある。

これは生出山をかこんで「バ」とくの脚のように配置されているが、もともと山頂にあった社をそれぞれ現在地に遷宮されたもので、三社とも延長七年の遷宮である。

神社名 山 神 社

鎮座地 都留市四日市場瀬中

祭 神 大山祇神

社 殿

例 祭

春祭り

由 緒

不詳

土地の人は、道

祖神という人も

あり、またサイ

の神であるとい

う人もいる。し

かし、山の神で

あるので大山祇

神を祀るという

説が正しいと思

われる。山梨大

明神より約五〇



昔は、山梨大明神と同じようにそこを街道が通っていたと伝えられている。

神社名 山梨大明神

鎮座地 都留市四日市場瀬中

祭 神 不明

由 緒

例 祭

四月十一日

もとは十一月十一日の秋祭りも行なわれたが今は行なわれない。

明治以前は瀬中東南の畠中に、志村氏の氏神として祀られていたものだと伝えられている。後現在地に祀られた。現在地は旧谷村街道で馬車が通っていた沿線にある。また生出神社例祭の際、合図の砲を鳴らした地点もある。

米上方山の中腹にある。

鳥居は鉄製一基がある。
本殿は流造りで享保七年（一七二二年）の作であるという。
雨屋は切妻トタン葺で方一間である。

社 殿

小祠であるが、鉄骨トタン葺にて被覆されている。

社殿の裏、街道沿線には馬頭観音四十四基外、数基に上る供養塔などが建てられている。

